

# こども「いきいき」生き物調査新聞 2019

こども「いきいき」生き物調査 2019 調査結果概要版

## 横浜でリスが増えている！？



色が濃いところ  
でよく見られて  
いるよ！



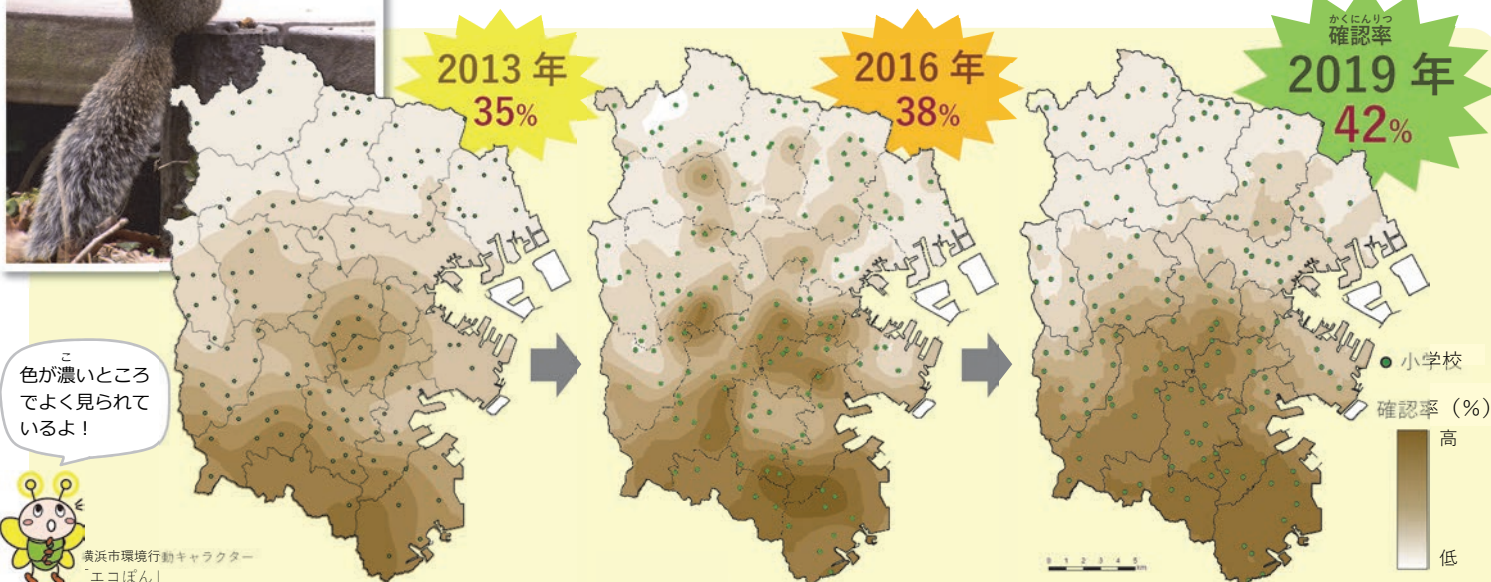
### リスを見つけた人 増加

市内で確認されるリスはもともと横浜にはいなかったクリハラリス（タイワンリス）です。南部を中心に生息し、北部には生息していないか非常に少数です。過年2回の調査同様、市の南部ほど確認率が高いようすがはっきりと表れました。市全体の確認率は、2013年の35%、2016年の38%から増加し、42%になりました。

### 数や生息場所が拡大か

今回は確認率の高いエリアが大きく北へ広がるようなようすは見られませんでした。市の南部ではこれまであった確認率の低いエリアがなくなっていました。

横浜市全域を対象としたリス調査は他になく、リスが増加していることを示す、非常に貴重なデータが得られました。



## レアな鳥、ハッカチョウを初調査

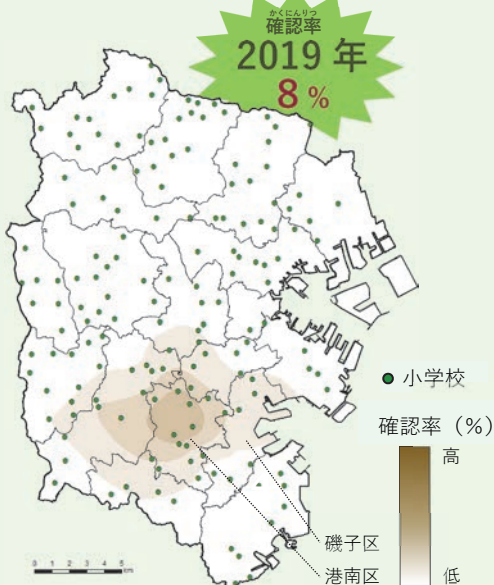


2019年  
8%

### 市内 ごく一部に生息

ハッカチョウは、港南区、磯子区などにいる外来種の鳥で、見られる地域は非常に限られます。一方で、生息地では集団で見られることもあります。市内全域にいるムクドリと似ているため、区別がつかないことが心配されましたが、調査結果はハッカチョウの現在の生息状況をよく表しているものと思われます。

江戸時代の屏風絵に描かれるなどし、古くから親しまれてきたようですが、飼われていたものが逃げ出すなどし、国内数か所で見られます。市内で初めて見つかったのは40年以上前ですが、その後、増加し、地域によっては鳴き声やフンにより害鳥とされています。近年では、旭区や保土ヶ谷区北部の帷子川沿いなどでも目撃情報があり、今後はもっと多くの地域で見られるようになるかもしれません。



## こども「いきいき」生き物調査ってなに？

横浜市環境科学研究所では、市内の市立小学校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を行っています。2013年からはじめ、2019年で7年目になります。



### どうやって調査したの？

調査票を配布し、過去1年間（2018年9月1日～2019年8月31日）に「家や学校の近く」（＝学区内）で見つかり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。2019年は、ツバメの巣、リス、カブトムシ、白サギのなかま、ふきのとう、ハッカチョウ、ヒキガエル、サワガニ、カマキリのなかまを調査しました。

※ 生き物の分類のしやすさを考えながら、市内の自然環境を特徴づけるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選びました。

### だれが調査したの？

調査するのは横浜市の小学5年生！横浜市立小学校（義務教育学校を含む）全342校に調査票を配布し、169校11,511人が参加してくれました。※ 希望に応じて他学年にも参加してもらいました。

### なんで調査したの？

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、市内広域における生物情報を取得することを目的に実施しました。

### どうやって集計したの？

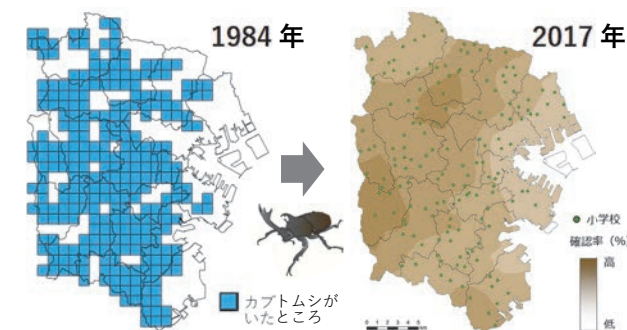
学校ごとに対象の生き物を見つけた割合（確認率）を集計し、市内全域における確認率の高低が色の濃淡で表示されるよう作図しました。

※ 作図にあたっては1校あたりの回答数が10人以上の160校のデータを使用し、GISソフト（ArcGIS）を用いたKriging法により、空間補間を行いました。

### 実は40年前にも…

いくつかの生き物については、1984～1991年に最大3回、小中学生を対象としたアンケートによる分布調査が行われています。約1km四方のますごとに対象の生き物が確認できたかどうかを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました。

### カブトムシの調査結果の比較



結果の詳細は、横浜市環境科学研究所 Web ページに掲載しています。（QRコードからもアクセスできます）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyoutayosei/ikiiki.html>

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年以降も対象とする生き物の種類を変えながら実施する予定です。





### 2019年の調査結果

※数字(%)は市全体の確認率を示しています。

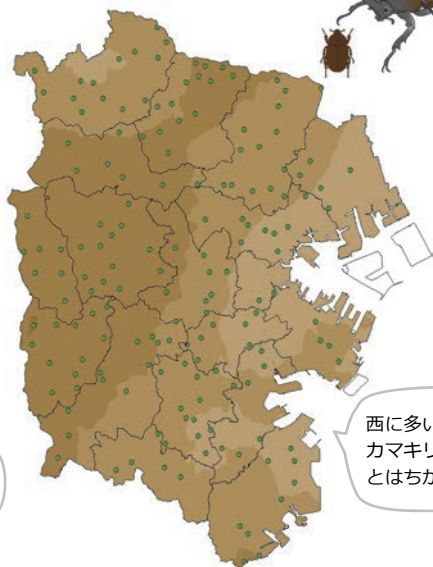
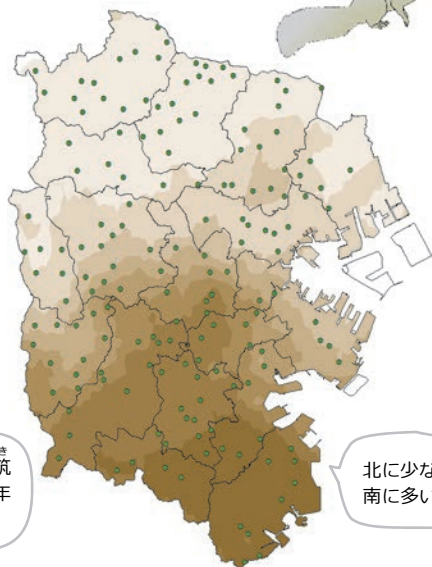
ツバメの巣 73%



リス 42%



カブトムシ 68%



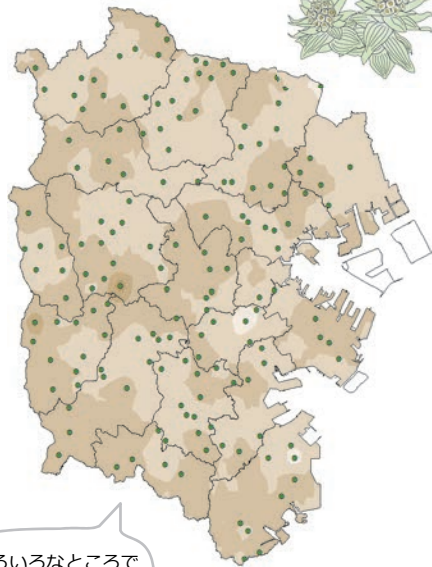
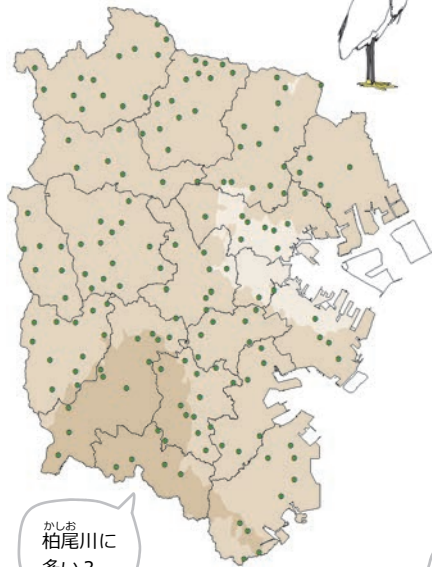
白サギのなかま 26%



ふきのとう 30%



ハッカチョウ 8%



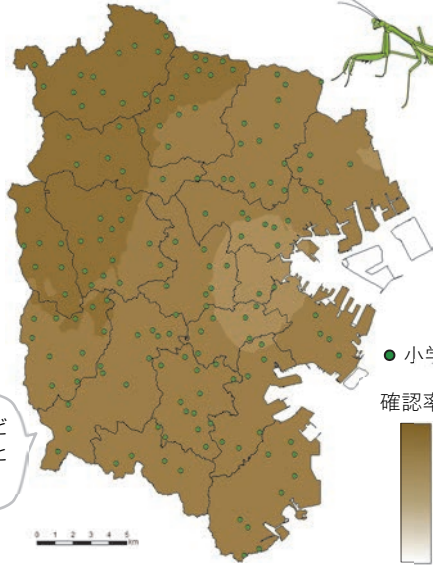
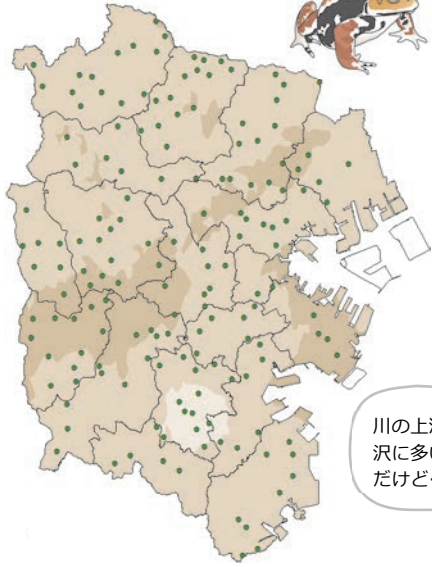
ヒキガエル 28%



サワガニ 22%



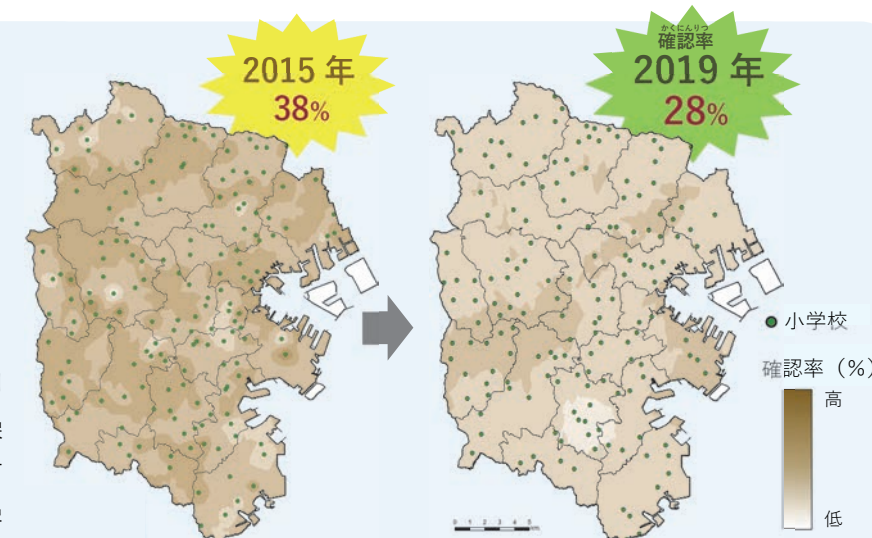
カマキリのなかま 78%



## ヒキガエルが減っている!?

### 見つけた人は大きく減少

ヒキガエルは、2015年、2019年ともに市内各地で確認されました。市内で見られるカエル類のなかでは、乾燥に強いほうで、市内各地に点々と分布しているものと思われます。近くの学校であってもよく見られるところとそうでないところがあり、産卵できる池があるかなど、周辺環境の微妙な違いが表れているのかもしれませんが。ただし、市内全体の確認率は2015年の38%から28%へと大きく減少していました。ヒキガエルに限らず、カエル類は、産卵場所がなくなるなどの原因で、生息数が減少している地域が少なくないと思われ、今後注目です。



## ～ 小学生1万人以上が調査に参加してくれました ～

**感謝状**

みなさんはこども「いきいき」生き物調査2019に参加され  
環境活動に積極的に取り組んでいただきました  
ここに深く感謝の意を表します  
令和2年1月27日 横浜市環境科学研究所

<調査に参加していただいた小学校>

【鶴見区】豊岡・下野谷・岸谷・寺尾・馬場・駒岡・獅子ヶ谷【神奈川区】二谷・浦島・幸ヶ谷・三ツ沢・斎藤分・神大寺・西寺尾第二・羽沢・南神大寺【西区】一本松【中区】北方・本町・大鳥・本牧南・本牧【南区】太田・南太田・蒔田・南・永田・六つ川・別所【港南区】日野・桜岡・芹が谷・吉原・下永谷・上大岡・港南台第一・日野南・下野庭・永谷・港南台第三・丸山台・野庭すずかけ【保土ヶ谷区】星川・峯・岩崎・桜台・常盤台・藤塚・瀬戸ヶ谷・川島【旭区】二俣川・市沢・都岡・希望ヶ丘・鶴ヶ峯・万騎が原・今宿・さちが丘・笹野台・中沢・上白根・善部・今宿南【磯子区】磯子・滝頭・浜・梅林・洋光台第三・洋光台第四・さわの里【金沢区】六浦・富岡・瀬ヶ崎・西柴・高舟台・並木第一・並木第四・六浦南・並木中央【港北区】新田・城郷・港北・菊名・篠原・下田・大曾根・篠原西・矢上・駒林・太尾・新羽・北綱島・小机【緑区】新治・十日市場・三保・東本郷・緑・いぶき野・森の台・山下みどり台・霧が丘義務教育学校【青葉区】谷本・山内・奈良・美しが丘・榎が丘・もえぎ野・みたけ台・美しが丘東・あざみ野第一・鴨志田第一・新石川・荏田西・桂・奈良の丘・黒須田【都筑区】山田・すみれが丘・茅ヶ崎・川和・都田西・荏田南・川和東・茅ヶ崎台・北山田・都筑・南山田・つづきの丘・東山田・茅ヶ崎東・牛久保【戸塚区】川上・大正・東戸塚・境木・川上北・柏尾・矢部・平戸・深谷・鳥が丘・品濃・東俣野【栄区】本郷・西本郷・小山台・笠間・上郷【泉区】中和田・岡津・中田・上飯田・東中田・新橋・下和泉・葛野・いずみ野・緑園東・緑園西・飯田北いちょう【瀬谷区】瀬谷・原・上瀬谷・三ツ境・二つ橋・瀬谷第二・大門・阿久和 (全169校)

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。